

主な受賞者の紹介

ア 創意工夫ある教育活動により、顕著な成果をあげた者

○春日井市立大手小学校 教諭 佐藤 幸子 (名簿番号 10)

長年にわたり、スクールカウンセラーを活用した生徒指導に携わり、研究・研修に努め、常に前向きに児童生徒の立場になって指導に当たっている。平成19年度には、春日井市教育研究員として校内適応指導教室の在り方の研究に積極的に取り組み、不登校生徒それぞれの実情に応じた指導を実践した。さらに平成21年度には、県教育センター夏期研修員として、「生徒の自己指導能力の育成」をテーマとして研究を進め、高い評価を得ている。特に、平成22年度、県スクールカウンセラー連絡協議会において、スクールカウンセラーを活用した校内の教育相談における組織の工夫・改善を目指した実践研究は、他の模範となっている。平成24年度からは、春日井市夏期専門職研修委員としてカウンセリング部会の中心となり、春日井市の教育相談活動の充実と発展に力を入れている。



「子どもたちからの相談を受ける佐藤教諭」

教職員に対しても心配りや気配りが行き届き、心の支えになっている。

○県立新城高等学校 教諭 白井 秀典 (名簿番号94)



「食品研究の指導をする白井教諭」

常に課題意識をもち、生徒の学習意欲を高めるプロジェクト活動の指導に取り組んだ。平成6年度愛知県産業教育に関する教員顕彰論文「マウスを用いた胚移植の指導」が優秀に入賞、平成8年度は全国高等学校農場協会全国大会で、「畜産総合実習におけるプロジェクト学習の運用について」研究発表を行った。平成10年度は「古紙を有効利用した発酵堆肥」の研究が全国

産業教育フェアリサイクルアイデアコンテストで入選。平成16年度には全国農業高等学校長協会功労者表彰を受賞し、さらに教育実践が高校教育資料に掲載された。食品製造担当となってからは、渥美農業高校と新城高校の2校において食品営業許可（瓶詰及び缶詰類）を取得し、実習で製造した食品を公の場で商品として販売できるようにするなど、食品製造教育の発展に貢献した。

イ 使命感を持って教育活動の改善に取り組み、信頼が厚い者

○半田市立乙川幼稚園 主査教諭 水川 真理 (名簿番号 1)

平成 20 年度～21 年度の 2 年間、半田市子育て支援センターに勤務し、子育て支援の仕方や親子の実情などを学んだ。

平成 22 年度から乙川幼稚園主査教諭として、これまでの経験を生かし、子育て支援の考え方・方法などを職員に啓発したり、指導したりしている。また、若手職員の育成にも熱心に取り組んでいる。

平成 24 年度からは、市内で初めて設置された特別支援学級「うさぎ組」の運営において担任を支援している。支援児への理解を園全体で深めるため、発達障害についての研修会に自ら参加し、それを生かすことで他の職員の見本となるなど、職場によい影響を与えている。

子育て等の相談を行ったり、必要があればカウンセラーへの相談へつなげていったりするなど、保護者の心のケアについても重要な役割を果たし、保護者からの信頼も厚い。



「保護者の相談に応じる水川主査教諭」

○田原市立田原中学校 養護教諭 山田 敦子 (名簿番号 71)

田原市の主任養護教諭としての自覚と使命感を持ち、養護教諭が日々充実した活動を展開し、資質の向上を図っていけるように、研修会の企画や組織的な活動を支援している。また、経験の浅い養護教諭の相談にも乗っている。

養護教諭の拠り所となる「田原市保健管理の手引き」を自ら作成し指導に生かしている。また、母子手帳に続く義務教育 9 年間の成長の記録簿として、市内の児童生徒の成長を表す記録『すこやか』を作成した。さらに、養護教諭



「保健室登校の生徒を支援する山田養護教諭」

として心の健康に着目し、学校保健の充実に取り組み、思い悩んでいる生徒が「心をほぐす場」「心を休められる場」として保健室を活用できるように、学級担任や学年主任との連携を大切にして支援体制を改善した。特に、不登校生徒に寄り添ったきめ細かい支援は生徒に安心感を与え、「心の居場所」とすることができた。その他、不登校生徒の保護者が相談できるホットラインを設置し、保護者と共によりよい支援を行う体制を確立した。誰からも信頼される養護教諭である。

○県立岡崎工業高等学校 教諭 佐藤 泰嗣 (名簿番号 85)



「実習前の注意を促す佐藤教諭」

地域産業の将来を担う人材の育成を目指し、特に地域企業・商工会議所との連携に力を注ぎ、本校におけるキャリア教育の中心的役割を果たしている。主に取り組んだ事業には、「あいち知と技の探究教育推進事業」(平成21年度から平成24年度)、「地域産業の担い手育成事業」(愛知版クラフトマン21・クラフトマンⅡ)、「岡崎地区ものづくり基盤人材育成事業」がある。また、機械科教諭として、職業能力向上にも力を入れ、技能

検定委員としても活躍している。本教諭は、明るく誠実な人柄で、周囲に対する心遣いもあり、周りの教員や生徒からの信望が厚い。また、地元企業関係者や商工会議所等からの信頼も厚く、学校とのパイプ役として貢献している。さらに本年度は、生徒指導主事として生徒の指導や、若手教員の育成にも力を入れている。

ウ 地道な教育活動を継続して行い、他の模範となる者

○大口町立大口南小学校 教諭 天野 拓夫 (名簿番号 7)

社会科教育において継続して「社会を見る目を育てる社会科学習」という視点で実践研究を行っている。また、地域素材を教材として開発し、子どもの興味関心を高める努力をしている。その成果を愛知県社会科教育研究発表会などで発表し、高い評価を受けた。丹葉地方の社会科学研究部会の研究推進活動や教育課程の編成活動にも携わっている。さらに、平成22年度より、丹葉地方教育事務協議会より社会科教科指導員を委嘱され、小中学校で社会科授業についての指導助言を行っている。



「社会科の授業を行う天野教諭」

地域との連携に積極的に取り組み、平成20年度に大口町社会教育主事として「学校支援地域本部事業」の立ち上げの中心となって活動した。本事業は後に文部科学大臣表彰を受けた。現任校でも多数の地域ボランティアの学校への受け入れの調整役として尽力している。

教育活動への熱心な取組や誠実な人柄は学校内外から厚い信頼を得ている。

○県立瑞陵高等学校 教諭 森部 優子 (名簿番号72)



「情報の授業で机間巡視する森部教諭」

家庭科の教員として長く専門学科での教育に携わり、実践的で主体性のある生徒を育成することに尽力してきた。現在、県立瑞陵高校において、県下唯一の食物科に通算14年間勤務している。これまでに県高校家庭科技術検定専門委員や県家庭科研究会教材研究部会の専門委員を数年間務め、教材開発に携わるとともに、家庭科に関する各種の全国大会ではその役員として運営の中核となってきた。現在は愛知県高等学校家

庭科研究会の副会長として会を運営し、全県の家庭科教育の振興に努めている。愛知県全体の家庭科教育や情報教育の推進に取り組みながらも、学校では学科主任として日常の教育活動を地道に続けている。創意工夫のできる礼儀正しく意欲的な生徒を輩出する努力を学科全体で行っている。こうした取組の結果、食物科の人気は高い。

○県立佐織養護学校 教諭 朝倉 直美 (名簿番号98)

平成13年度に佐織養護学校に赴任以来、教材研究を怠らない丁寧な授業を続け、児童生徒一人一人の力を確実に伸ばしてきた。

また、平成20年度から22年度には、研修部主任として「個や障害特性に応じた支援の在り方」をテーマとした全校研究に取り組み、リーダーシップを発揮して「さおりの実践第24集」をまとめた。



「SSTを意図した国語の授業を展開する朝倉教諭」

平成23年度からは、中学部の学年主任及び学級担任として、特に、自閉症のある生徒の教育に関する高い専門性を基に、社会性を育む学習や、生徒が理解しやすい教材の研究などに熱心に取り組んでいる。こうした地道な実践の積み重ねにより、生徒の力を最大限に伸ばすことができ、保護者からの信頼も大変厚い。真摯な態度で一人一人の生徒に丁寧に向き合う姿は他の教員の模範であり、校内研修の講師を務めるなど、若手教員の育成にも大きく寄与している。